

## 5周年記念・市民芸術祭の感想(2)

### 展示部門

それぞれの作品が各空間の中で居心地よく収まっていて、今回のような団体ごとの部屋割りによる展示方法が、作品にとっても、また各団体の性格からしても良いと思う。

展示室は、美術家協会とジュニアの作品が共演し、おもしろい会場空間になっていた。ジュニア・シニア絵画が会場に色を添えた反面、「文化体験フェスタ」の参加作品が少なく残念だった。

大ホールエントランスに、オブジェを設置したのは良かった。各展示場の作品表示札は、ほど良い大きさと、品よく飾られていた。

展示部門においては、今回のテーマ「心が象(かたち)になるとき」は、どの作品にとっても合致してよかった。ただ、設置場所の関係で大作でも観る人が少なく、場所の選定や客足へのいざないが検討課題だと思う。 展示部門統括 水村 昭



### 「世代を超えて」

舞台部門・小ホール公演 2月26日(土)

森光子さんがNHKインタビューで、「満席の舞台ばかりではなかった。客席の白いカバーが多くて『今日は看護婦さんばかり』と言っては、どうしてお客様が少ないのだろう。どうしたら空席が減るのだろうと思ひ悩んだこと、舞台にあがるものにとってお客様が観てくれてなんぼのもの」としみじみ語ったコメントを思い起こす。

さて、芸術祭小ホールの発表。自分達の発表を何人が観てくれたのでしょうか。発表者総勢130人、それ以上の観客がいた団体は半数以下、小ホールは赤い座席なので、「浦和レッズのサポーター」で埋まっていました。

チラシを山ほど配布しました。しかし、ハワイアンの場合「口コミ」で強引にお願いした人達が大勢来てくれました。一度観てもらえば、会話が広がります。飲み屋客で来てくれた人達へのお礼もやっと終わりました。

「観客がいてなんぼのもの」・・・しみじみ感じた芸術祭でした。

「世代を超えて」統括 小室 勝男

